

中村学園大学 認証評価結果に対する改善対応（改善等進捗確認シート）

本学では令和3年度に公益財団法人大学基準協会の第3期機関別認証評価を併設短期大学部と同時受審し、令和4年3月に、同協会の大学基準に適合していると認定されました。

評価結果における提言を受け、本学の長所をさらに伸展させるとともに、課題・努力目標に関しては改善・向上のための取り組みを実施し、次期認証評価も見据えながら、不断のPDCAサイクルを確立することが強く求められています。

大学基準協会へ「改善報告書」を提出する令和7年7月の期限を一つの節目として、主要委員会(センター組織含む)、各学部・学科・研究科及び事務局(以下、各部局)において、次の通り改善に取り組んでいます。

No	提言の別	提言内容	担当部局	章番号(頁)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第2回 点検結果 (R4最終)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第4回 点検結果 (R5最終・R6計画)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第3回 点検結果 (R6最終)
大学No.1	是正勧告	組織間の連携と「審議会」を中心とした内部質保証の機能の確立	大学全体、審議会(教務部●)	第2章 内部質保証 2.1.3(P6~8)	記載内容及び進捗評価 の再検討	記載内容にて計画継続 (軽微なコメント)	対応完了(令和6年度)
大学No.2	改善課題	単位の実質化を図る措置	流通科学部、教育学部、教務委員会(教務部●)	第4章 教育課程・学修成果 4.1.4(P12~15)	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和5年度)	
大学No.3	改善課題	研究科における学位授与方針に明示した学習成果の測定	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)	第4章 教育課程・学習成果 4.1.6(P13)	記載内容にて計画継続 (軽微なコメント)	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和6年度)
大学No.4	改善課題	学生受け入れの定員管理	流通科学部、入試運営委員会(入試広報部●)	第5章 学生の受け入れ 5.1.3(P16.17)	記載内容にて計画継続 (軽微なコメント)	記載内容にて 計画継続	記載内容にて 計画継続
大学No.5	努力目標	「FDセンター」の権限と役割の規定	大学全体、審議会(教務部)、FDセンター(教務部●)	第2章 内部質保証 2.1.1(P4,5)	記載内容の再検討	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和6年度)
大学No.6	努力目標	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との連携	流通科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)	第2章 内部質保証 2.1.3(P6)	対応完了(令和4年度)		
大学No.7	努力目標	大学院修了者数・就職者数の公表	連携推進部●	第2章 内部質保証 2.1.4(P8)	対応完了(令和4年度)		
大学No.8	努力目標	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針と、履修系統図に示される「科目領域の教育目標」との関係の明確化	大学全体、FDセンター(教務部●)	第4章 教育課程・学習成果 4.1.3(P11,12)	記載内容にて計画継続 (軽微なコメント)	対応完了(令和5年度)	
大学No.9	努力目標	「外国において履修させることができる」教育課程及びその教育内容の提示	教務委員会(教務部)、国際交流委員会(学生部●)	第4章 教育課程・学習成果 4.1.4(P12)	記載内容にて計画継続 (軽微なコメント)	対応完了(令和5年度)	
大学No.10	努力目標	「栄養士養成施設指導要領」に基づく対応の維持・継続	栄養科学部、教務委員会(教務部●)	第4章 教育課程・学習成果 4.1.4(P12)			

●は取りまとめ担当事務局：担当委員会並びに各部局は進捗等について適宜共有

No	提言の別	提言内容	担当部局	章番号(頁)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第2回 点検結果 (R4最終)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第4回 点検結果 (R5最終・R6計画)	自己点検・評価 委員会及び審議会 第3回 点検結果 (R6最終)
大学No.11	努力目標	卒業後アンケート項目と各学科の学位授与方針に示した学習成果との関連についての明確化	就職委員会(連携推進部●)、FDセンター(教務部)	第4章 教育課程・学習成果 4.1.6(P13)	対応完了(令和4年度) <u>(軽微なコメント)</u>		
大学No.12	努力目標	博士前期課程及び博士後期課程学生の受け入れ方針	栄養科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)	第5章 学生の受け入れ 5.1.1 (P15)	記載内容にて計画継続 <u>(軽微なコメント)</u>	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和6年度)
大学No.13	努力目標	教員組織の男女のバランス	大学全体、審議会(教務部)、教員選考委員会(総務部●)	第6章 教員・教員組織 6.1.2(P18)	記載内容にて計画継続 <u>(軽微なコメント)</u>	記載内容にて 計画継続	記載内容にて 計画継続
大学No.14	努力目標	学内での学生アルバイト制度に対する学生への適切な説明・明示	学生部●	第7章 学生支援 7.1.2(P21)	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和5年度)	
大学No.15	努力目標	学生支援に関する「審議会」が主導となった改善・向上の取り組み	大学全体、審議会(教務部)、教務委員会(教務部)、学生委員会(学生部●)、国際交流委員会(学生部)、就職委員会(連携推進部)	第7章 学生支援 7.1.3(P21.22)	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和5年度)	
大学No.16	努力目標	学部学生に対する研究倫理教育	研究委員会(連携推進部●)	第8章 教育研究等環境 8.1.5(P26)	記載内容にて計画継続 <u>(軽微なコメント)</u>	対応完了(令和5年度)	
大学No.17	努力目標	「社会連携推進センター運営委員会」による質的な点検・評価の取組み	社会連携推進センター運営委員会(連携推進部●)	第9章 社会連携・社会貢献 9.1.3(P27.28)	記載内容にて 計画継続	記載内容にて 計画継続	対応完了(令和6年度)
大学No.18	努力目標	予算執行に伴う効果の分析・検証する仕組みの確立	財務部●	第10章 10.1.3(P29)	対応完了(令和4年度)		

●は取りまとめ担当事務局：担当委員会並びに各部局は進捗等について適宜共有

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和7年3月現在

- I 提言の別 是正勧告
- II 提言内容 組織間の連携と「審議会」を中心とした内部質保証の機能の確立【大学 No. 1】
- III 担当部局 大学全体、審議会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>事業計画及び本協会の大学基準に基づいた2つのPDCAサイクルにおいて、「自己点検・評価委員会」「FDセンター」それぞれが改善策を検討しているものの、内部質保証推進組織である「審議会」は、構成員である学部長等に具体的な改善指示・支援を行うなどの改善・向上のプロセスに携わっておらず、組織間の連携が認められない。</p>	有	<p>【実施済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以上に、内部質保証推進に必要な議題について、より多くの時間を割き、丁寧な説明・議論を行うことに努めた。 ・審議会において内部質保証強化に向けた討議・提言ができるような会議の在り方について、審議会、自己点検・評価委員会、FDセンターを所管する事務局間での検討を行った。 ・「審議会」は「学長のもとで全学的に内部質保証を統括し、推進・検証を行う組織」であることから、「審議会」統括のもと、内部質保証体制及び機能の見直しに着手した。具体的には、内部質保証推進組織である「審議会」、内部質保証推進に関与する「自己点検・評価委員会」及び「FDセンター」の3つの組織の役割と権限を明確にし、各組織の規程にそれらを明記する改正案の検討を行い、「審議会」「自己点検・評価委員会」規程については2024年10月21日開催の審議会、「FDセンター」規程については2024年12月16日開催の審議会において審議、承認された。また、組織間の連携については、組織間の関係性を図式で明示する「教育を軸とした内部質保証体系図」の改正を検討し、2024年10月21日開催の審議会で審議、承認された。これらの改正により、各組織の役割、権限及び組織間の連携を明確にすることで、「審議会」を中心とした全学的な内部質保証の機能を確立した。
2	<p>学生支援や社会連携等に関する事務局組織の点検・評価の結果については、「自己点検・評価委員会」の検討の前に、実際には「理念に沿った目的実現のための方針」には記載されていない「事務職経営企画会議」が検討を行っており、方針と異なる組織が内部質保証に関わっていると判断されている。</p>	有	<p>【実施済】※令和4年度に実施済（令和5年度対応なし）</p> <p>大学のみならず学園全体を俯瞰し、各学部・研究科・学科に横断的に施策を実行できる事務局の役割は今後も重要であるが、「事務職経営企画会議」は、大学・短期大学部の内部質保証ではなく、学園事務局全体での取組状況を把握することを目的としている。そのため、「事務職経営企画会議」を「内部質保証体制図」等に明示することは適切ではないと判断した。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。
- 【A】 達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。
- 【B】 達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
- 【C】 達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。
- 【D】 達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	4	審議会	「審議会」の議題・報告事項について、他の会議体で対応できるもの等を精査すると共に、説明時間・資料を短縮・割愛	済
R4	4	審議会	「審議会」の議論の経緯をより明確に議事録に残すことを推進	済
R4	10	審議会	「自己点検・評価委員会」「FDセンター」「事務職経営企画会議」に対し、審議会との関係について見直し・検討を依頼	済
R4	11～R5.1	審議会、自己点検・評価委員会、FDセンター	「各委員会・会議体にて、検討」することとしていたが、まずは各委員会・事務局の所管事務局間にて、審議会において内部質保証強化に向けた討議・提言ができるような会議の在り方について、検討を行った。 あわせて、自己点検・評価委員会では、委員会が発足した令和2年度～令和4年度までの活動内容を報告書として集約した。審議会との関係に関し、報告書内に記述し、学長報告を行った。	済
R4	11～R6.1	事務組織改編検討ワーキンググループ	事務組織の見直しを含め、審議会ならびにその下部組織のあるべき姿と役割等について検討した。	済
R5	4～9	審議会、自己点検・評価委員会、FDセンター	内部質保証に資する各組織間での具体的な連携方法について事務局での検討を行った。	済
R6	4～12	審議会、自己点検・評価委員会、FDセンター	全学的な内部質保証システムが機能するよう、組織間での具体的な連携体制及び方法について検討・実行し、審議会の役割をこれまで以上に明確化する。	済
R6	10月	審議会 自己点検・評価委員会 連携推進部	教育を軸とした内部質保証体系図の改訂 審議会および自己点検・評価委員会の役割や責任を整理した規程に改正	済
R6	12月	FDセンター	FDセンターの役割や責任を整理した規程に改正	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和6年1月現在

- I 提言の別 改善課題
- II 提言内容 単位の実質化を図る措置【大学 No. 2】
- III 担当部局 流通科学部、教育学部、教務委員会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>流通科学部流通科学科については、1年間に履修登録できる単位数の上限を46単位と定めていたが、編入学生にはその上限を設定していなかった。また、教育学部児童幼児教育学科については、1年間に履修登録できる単位数の上限を49単位と定めていたが、上限から特別支援教育に関する科目を除いていた。これらにより、実際に上限を超えて履修登録を行っている学生が多く見受けられ、単位の実質化を図る措置が不十分であると判断される状況であった。</p>	有	<p>流通科学部流通科学科については、転入学生及び編入学生が1年間に履修登録できる単位数の上限を49単位とする方針を定め、関連する細則の改正案について、2022（令和4）年10月20日開催の教務委員会、2022（令和4）年10月24日開催の審議会、2022（令和4）年10月27日開催の教授会で承認された。2023（令和5）年度以降入学の転入学生及び編入学生より適用のため、学生に対しては、中村学園大学学生便覧2023において上限単位数について周知を行う予定である。</p> <p>教育学部児童幼児教育学科については、1年間に履修登録できる単位数の上限49単位の中に、特別支援教育に関する科目を含める方針を定め、関連する規則の改正案について、2022（令和4）年1月20日開催の教務委員会、2021（令和4）年1月24日開催の審議会、2022（令和4）年1月27日開催の教授会で承認された。学生に対しては、中村学園大学Nガイド2022において上限単位数について周知を行っている。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	1	教育学部 児童幼児教育学科、教務部	1年間に履修登録できる単位数の上限について検討を行い、関連する規則「中村学園大学 教育学部 履修細則」の改正案を作成する。	済
R4	1	教務委員会 審議会 教授会	関連する規則「中村学園大学 教育学部 履修細則」の改正案を審議する。	済
R4	4	教育学部 児童幼児教育学科	改正した内容での運用を開始する。	済
R4	9	流通科学部 流通科学科、教務部	編入学生が1年間に履修登録できる単位数の上限について検討を行い、関連する規則「中村学園大学 流通科学部 履修細則」の改正案を作成する。	済
R4	10	教務委員会 審議会 教授会	関連する規則「中村学園大学 流通科学部 履修細則」の改正案を審議する。	済
R5	4	流通科学部 流通科学科	学生便覧で学生に周知を行い、改正した内容での運用を開始する。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和7年3月現在

- I 提言の別 改善課題
- II 提言内容 研究科における学位授与方針に明示した学習成果の測定【大学 No. 3】
- III 担当部局 栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>研究科の学習成果については、学位授与方針に基づいた学位論文審査基準を用い、修士論文及び博士論文の審査をもって測定しているものの、学位論文審査基準の内容は学位授与方針に示した学習成果を全て網羅しているとは言えず、測定方法と学位授与方針の連関が不明瞭であった。</p>	有	<p>R4年9月14日開催の教育ワークショップにおいて、全体テーマを「第3期認証評価結果からみるFD推進の現状把握」とし、分科会「大学院研究科のアセスメントポリシーとプラン推進の課題」として各研究科長から話題提供及びアセスメントプランの策定について検討を行った。R5年度は3研究科共通のアセスメントプランを策定し、大学院運営委員会、研究科委員会で承認を得た。アセスメントプランには、学位授与方針に示された学習成果項目について、学位授与方針と関連付けて表記している。アセスメントプランを着実に実行するために、評価項目毎に実施時期等を明記したアセスメントプランチェックリストを研究科毎に作成し、研究科委員会で了承を得た。また、学位論文審査基準に準拠した修士論文ルーブリックを作成し、それに基づいた修士論文審査を行っている。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	9	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科	教育ワークショップにおいて、第3期認証評価で指摘された事項に関して議論し、3研究科共通/研究科固有のアセスメントプランについて検討する。	済
R4	11	教育学研究科	教育学研究科のアセスメントプランを策定し、研究科委員会で承認を得る。	済
R4	12	流通科学研究科	流通科学研究科のアセスメントプランを策定し、研究科委員会で承認を得る。	済
R5	～3	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科	3研究科共通のアセスメントプランの策定	済
R5	～12	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科、大学院運営委員会	大学院運営委員会において、3研究科共通のアセスメントプランについて承認を得る。	済
R5	12	教育学研究科	研究科委員会において、教育学研究科のアセスメントチェックリスト(案)を提示	済
R6	～1	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科	3研究科共通のアセスメントプランについて、研究科委員会で報告する。	済
R6	1	教育学研究科	12月研究科委員会にて提示したアセスメントチェックリストで進めていくことを報告	済
R6	6	流通科学研究科	流通科学研究科のアセスメントチェックリスト(案)を策定し、研究科委員会で報告する。	済
R6	9	流通科学研究科	流通科学研究科の教学マネジメントブック、DPルーブリックと修士論文審査ルーブリックについて、研究科委員会で報告する。	済
R6	10	栄養科学研究科、大学院運営委員会	大学院運営委員会において、栄養科学研究科の3つのポリシー(案)について承認を得る。	済
R6	10	栄養科学研究科	栄養科学研究科のDPルーブリックと修士論文審査ルーブリックについて、研究科委員会で報告する。	済
R7	1	栄養科学研究科	栄養科学研究科のアセスメントチェックリスト(案)を策定し、研究科委員会で報告する。	済
R7	2	流通科学研究科	流通科学研究科 修士論文審査ルーブリックにもとづく修士論文審査を実施。	済
R7	2	教育学研究科	教育学研究科 修士論文審査ルーブリックにもとづく修士論文審査を実施。	済
R7	2	栄養科学研究科	栄養科学研究科 修士論文審査ルーブリックにもとづく修士論文審査を実施。	済
R7	随時	栄養科学研究科、教育学研究科、流通科学研究科	アセスメントプランチェックリストに示された項目について、各月の研究科委員会等で報告を行っている。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

令和7年3月

- I 提言の別 改善課題
- II 提言内容 学生受け入れの定員管理【大学 No. 4】
- III 担当部局 流通科学部、入学試験運営委員会（入試広報部●）

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、流通科学部流通科学科が1.27と高いため、学部の手続きを徹底するよう、改善が求められている。	有	<p>【実施済】</p> <p>流通科学部は、入学定員充足率の5年平均または収容定員充足率の基準が1.25以上に対し、過去5年間（2020～2024年度）の入学定員充足率の平均は1.19（前年度1.20）で前年度より改善されている。一方、2024年度の収容定員充足率は1.19（前年度1.17）と前年度を上回り、募集人員が最も多い一般選抜A方式において、2024年度は歩留率が過去5年で最も高くなったことが要因である。ST比にも影響し、2023年度の38.4に対し2024年度は40.6と上昇した。</p> <p>また、実験・実習を伴う栄養学部フード・マネジメント学科においては、入学定員充足率の5年平均または収容定員充足率の基準が1.20以上に対し、過去5年間（2020～2024年度）の入学定員充足率の平均は1.16（前年度1.19）、2024年度の収容定員充足率は1.12（前年度1.15）であり、何れも基準に抵触していない。【実施予定】</p> <p>2025年度入学試験においては、特に流通科学部で定員管理を徹底し、適切な比率、及び教育の環境確保に繋がるよう、引き続き入学試験運営委員会で審議を行う。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。
- 【A】 達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。
- 【B】 達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
- 【C】 達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。
- 【D】 達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細（実施時期、実施組織等）】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください（随時更新）

（大学基準協会への最終改善報告・R7.7月）

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	10・12	入学試験運営委員会（入試広報部）	総合型選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R4	11	入学試験運営委員会（入試広報部）	学校推薦型選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R5	2・3	入学試験運営委員会（入試広報部）	一般選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R5	10・12	入学試験運営委員会（入試広報部）	総合型選抜を実施する流通科学部を含む全学科において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R5	11	入学試験運営委員会（入試広報部）	流通科学部を含む全学部为学校推薦型選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R6	2・3	入学試験運営委員会（入試広報部）	流通科学部を含む全学部の一般選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R6	10・12	入学試験運営委員会（入試広報部）	総合型選抜を実施する流通科学部を含む全学科において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R6	11	入学試験運営委員会（入試広報部）	流通科学部を含む全学部の学校推薦型選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済
R7	2・3	入学試験運営委員会（入試広報部）	流通科学部を含む全学部の一般選抜において厳正な合否判定を実施し、適正な定員管理を行う	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和7年3月

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 「FDセンター」の権限と役割の規定【大学No.5】
- III 担当部局 大学全体、審議会(教務部)、FDセンター(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>内部質保証のための手続については、「自己点検・評価委員会」が各方針に基づく学部等の自己点検・評価の結果について整合性や一貫性を確認し、「自己点検・評価委員会」が確認した自己点検・評価の結果を、内部質保証に責任を負う組織である「審議会」が全学的に点検・評価することとなっている。しかし、当該方針には、この手続及び内部質保証システムの一翼を担う「FDセンター」の権限と役割が明確に示されていなかった。</p>	有	<p>FDセンターの権限や役割については、FDセンター規程に明示する検討を行う予定である。但し、内部質保証における是正勧告として「審議会」と「自己点検・評価委員会」「FDセンター」「事務職経営企画会議」の関係性を明瞭にした上で、「審議会」を中心として内部質保証を機能させることが求められているため、当該是正勧告の改善と合わせて、FDセンターの権限と役割の検討を行った。令和6年度には検討結果に基づき規程の改正を行い、FDセンターの権限と役割を明確に示した。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R5	1	関連事務局(総務部、教務部)	各委員会(審議会、自己点検・評価委員会、FDセンター)の所管事務局間にて、審議会において内部質保証強化に向けた討議・提言ができるような会議の在り方について、検討を行った。 あわせて、自己点検・評価委員会では、委員会が発足した令和2年度～令和4年度までの活動内容を報告書として集約した。審議会との関係に関し、報告書内に記述し、学長報告も行った。	済
R6	～2	FDセンター	内部質保証に係る各組織の関係性を明確にし、FDセンターの権限と役割について検討し、令和6年2月にFDセンター会議に改正案を諮る。	済
R6	～12	審議会、FDセンター	検討結果を元に規程の改正を行い、FDセンター会議、審議会で承認された。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和5年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との連関【大学 No. 6】
- III 担当部局 流通科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	流通科学研究科の教育課程の編成・実施方針に、他学部他研究科に記載されている学位授与方針との連関を示す文言が記されていないかった。	有	<p>教育課程の編成・実施方針に学位授与方針との連関を示す文言を追記した改正案を検討し、2022（令和4）年11月30日開催の大学院運営委員会、2022（令和4）年12月19日開催の審議会、2022（令和4）年12月22日開催の研究科委員会で承認された。</p> <p>（参考：承認された教育課程の編成・実施方針）</p> <p>本研究科は、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力を修得するため、以下の学修方針を定め、教育課程を編成しています。</p> <p>1. 本学流通科学部の教育研究分野と連動させ「経営学分野」と「商学分野」を配置し、系統的に履修することで各分野の専門的知識を修得する。</p> <p>—以下、変更なし。—</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	～10	流通科学研究科	教育課程の編成・実施方針の改正案を検討する	済
R4	11	大学院運営委員会	教育課程の編成・実施方針の改正案を大学院運営委員会に諮る	済
R4	12	審議会	教育課程の編成・実施方針の改正案を審議会に諮る	済
R4	12	流通科学研究科委員会	教育課程の編成・実施方針の改正案を流通科学研究科委員会に諮る	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和5年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 大学院修了者数・就職者数の公表【大学 No. 7】
- III 担当部局 連携推進部●

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>ホームページ以外の媒体でも、大学の教育・研究・学生生活・就職・人事・財務情報・行事等に関する最新の情報を、学生・教職員・保護者・就職先企業・他大学・高等学校等、広く学外にも発信するため、広報誌『セロリ』を年4回発行している。</p> <p>しかしながら、大学院における修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されていないため、改善が望まれる。</p>	有	<p>【実施済】</p> <p>本学ホームページの「就職状況」に大学院の項目を設定し、大学院修了者数、就職者数を公表した。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度が概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。
- 【A】 達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。
- 【B】 達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
- 【C】 達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分に実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。
- 【D】 達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	5月	連携推進部	本学ホームページに大学院の項目を設定、大学院修了者数、就職者数を公表	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和6年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針と、履修系統図に示される「科目領域の教育目標」との関係の明確化【大学 No. 8】
- III 担当部局 大学全体、FDセンター(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針と、履修系統図に示される「科目領域の教育目標」との関係が必ずしも明確ではないため、関係を一元的に把握できるように工夫することが望まれる。	有	DP ルーブリック策定のため、各学科において DP の見直しを行っており、DP の見直し・改正後、履修系統図の「科目領域の教育目標」と DP が合致するよう検討を行った。 DP ルーブリックとカリキュラムマップの策定により、履修系統図に示された「科目領域の教育目標」と学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が明確になっている。R5 年度からは、教育課程及び3ポリシー見直しの際に、履修系統図を用いての検証・見直しを行っている。また、フード・マネジメント学科及び流通科学科の履修系統図に「科目領域の教育目標」と関連する DP の記載が無かったため、関連する DP を記載する見直しを行った。これにより、全学科履修系統図において「科目領域の教育目標」と関連した DP が記載されたため、履修系統図で関係を一元的に把握できるようになった。

※年度末進捗 評価指標

- 【S】達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
【C】達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	11	栄養科学科	履修系統図の見直し、DPとの関連を明記	済
R5	～3	各学部・学科	DPルーブリックの策定(流通科学部はカリキュラム見直しの際に策定予定)	済
R5	12	各学部・学科	カリキュラム変更の場合、履修系統図を更新した。 フード・マネジメント学科及び流通科学科の履修系統図に関連するDPを記載した。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和5年5月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 「外国において履修させることができる」教育課程及びその教育内容の提示【大学 No. 9】
- III 担当部局 教務委員会(教務部)、国際交流委員会(学生部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	多様なメディアを高度に利用した授業を外国において履修させることができるとする学則第16条第3項を必要とする教育課程及びその教育内容について、該当の教育課程及びその教育内容自体は学則に記載しているが、「外国において履修させることができる」教育課程及びその教育内容を示していない状況であった。	有	現在、多様なメディアを高度に利用した授業は、新型コロナウイルス感染症対策のために実施しており、外国において履修することができる科目はオンデマンド型遠隔授業のうち、教科担当者が認めた科目に限り履修を許可している。これに加えて、流通科学部については休学をせずに留学することができるスカラシップ制度があるため、学部において検討を行い、外国において履修させることができる科目を検討し、令和4年12月開催の教務委員会において承認された。

※年度末進捗 評価指標

【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	12	流通科学部、教務委員会、教務部	流通科学部開講科目の内、「外国において履修させることができる科目」を検討し、教務委員会で承認を得る。	済
R5	～2	教務委員会、教務部	遠隔授業を実施する科目の検討(令和5年開講分) ※外国において履修させることができるオンデマンド型遠隔授業の提示	済
R5	4	教務委員会、教務部	遠隔授業を実施する科目を時間割及びシラバスで学生へ提示 ※外国において履修させることができるオンデマンド型遠隔授業の提示	済
R5	4	流通科学部、教務部	上述の教務委員会で承認を得た科目について、UNIPAで学生へ告知した。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応無し

令和5年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 「栄養士養成施設指導要領」に基づく対応の維持・継続【大学 No. 10】
- III 担当部局 栄養科学部、教務委員会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>「栄養士養成施設指導要領」において、専門クラスの1クラスの受講者数に上限が設定されているが、実際は超過している科目がある。コロナ禍の実験・実習科目においては、1クラスを一定人数で2分割し、オンラインで1時間の講義、対面で2時間の実験・実習という形式で対応しているため、今後も引き続きの対応をすることが望ましいと判断された。</p>	無	<p>1クラスあたりの受講者数に関しては、授業の方法及び施設、設備その他教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる場合は、上限を超える人数であっても、差し支えないとされております。令和4年6月28日に所管庁である厚生労働省・九州厚生局により実施された「管理栄養士養成施設指導調査」においても、1クラスあたりの受講者数に関する指摘はありませんでした。</p> <p>授業実施方法、教室環境等は科目によって異なることから、コロナ禍で1クラスを一定人数で2分割して実施した形式についての教育効果を検証しつつ、特性に応じて、授業毎に適切な受講者数で授業を運営していく予定です。</p> <p>これまでの運用の範囲内であるため、個別の改善計画はございません。</p>

※年度末進捗 評価指標

【S】 達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和5年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 卒業後アンケート項目と各学科の学位授与方針に示した学習成果との関連についての明確化【大学 No. 11】
- III 担当部局 就職委員会(連携推進部●)、FDセンター(教務部)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	卒業生に対する卒業後アンケート及び卒業生の就職先に対して行うアンケートでは、各学科の学位授与方針に示した学習成果について、どの程度身に付いたかを問うものとなっているものの、アンケート項目が全学科で同一になっている。学習成果とアンケート項目の関連性は認められるが、今後は、各学科の学位授与方針に示した学習成果とアンケート項目の内容を対応させるなど、工夫が求められる。	有	【実施済】令和3年度実施分より毎年FDセンター会議でアンケート項目について協議・作成依頼をし、学科ごとに学位授与方針の示した学習成果が身についているかを問うアンケート内容にて実施している。令和4年度は11月の第4回FDセンター会議にて作成依頼をし、項目を決定した。また、アンケート発送は令和5年2月に発送した。

※年度末進捗 評価指標

【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。

【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	11月1日	FDセンター会議	アンケート内容項目の協議・変更依頼(11月11日締切)→アンケート項目決定	済
R5	2月	アンケート発送	卒学生、卒業生の就職先にアンケートを発送した。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和7年3月

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 博士前期課程及び博士後期課程学生の受け入れ方針【大学 No. 12】
- III 担当部局 栄養科学研究科、大学院運営委員会(教務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	栄養科学研究科博士前期課程及び博士後期課程において、学生の受け入れ方針に、学生に求める入学前の学習歴、学力水準、能力を示していないとみなされる状況であった。	有	【実施済】 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の改訂に準じて、受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の改訂の検討して令和5年度に原案を作成した。令和6年度は、学生の受け入れ方針に、学生に求める入学前の学習歴、学力水準、能力を明示する改正案を策定し、6月26日開催の栄養科学研究科委員会、10月10日開催の大学院運営委員会及び10月21日開催の審議会にて改正案を審議し、承認された。その後、10月23日開催の栄養科学研究科委員会で改正案が承認された旨の報告を行った。

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	6	栄養科学研究科	学生の受け入れ方針の問題について研究科委員会で提議し、検討を開始した。	済
R5	9	栄養科学研究科	学生の受け入れ方針の意見を集約し、改正案の策定を検討する	済
R6	6	栄養科学研究科委員会	学生の受け入れ方針の改正案を、栄養科学研究科委員会に諮る。	済
R6	10	大学院運営委員会	学生の受け入れ方針の改正案を、大学院運営委員会に諮る	済
R6	10	審議会	学生の受け入れ方針の改正案を、審議会に諮る	済
R7	10	栄養科学研究科委員会	学生の受け入れ方針の改正案を、栄養科学研究科委員会で報告する。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

令和7年3月

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 教員組織の男女のバランス【大学 No. 13】
- III 担当部局 大学全体、審議会(教務部)、教員選考委員会(総務部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	教授職の女性比率が准教授、講師、助教等の下位職と比べて著しく低い ため、職位・年齢・性別・学問分野等のバランスを考慮することが望まれる。 (教員組織編成方針の実行)	有	<p>【実施予定】</p> <p>教員の採用及び昇格においては、性別・年齢などのバランスは絶えず考慮しながら審査を行う。実務家教員を含め、様々な教育研究業績を有する若手教員の登用を図る。</p> <p>【実施済】</p> <p>補充が必要な学問分野を中心に、教育研究体制の更なる強化を図るため、募集計画を立て公募を行った。資格審査委員会並びに選考委員会における適切性や透明性の担保は当然のこと、性別・職位・年齢など現在の所属教員とのバランスを考慮して審査を行った。本学の教育研究目標を達成するために最も力を発揮することが期待される教員を採用したことから、結果として教授職の女性比率向上は叶わなかったが、今後も可能な限り年齢や性別を均衡状態に近づけられるよう継続して取り組む。なお、課題解決に向けた取組は行ったことから、今年度末進捗評価はBとする。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	4	審議会、教授会	教員の任用(採用・昇格)枠について審議、教員選考委員・教員資格審査委員選出	済
R4	5	教員選考委員会	公募内容等決定	済
R4	7	教員資格審査委員会、教員選考委員会	書類審査	済
R4	8	教員選考委員会	プレゼンテーション審査、候補者決定	済
R4	9	審議会	任用審議	済
R4	10	常任理事会	任用審議	済
R4	11	教授会	任用予定者報告	済
R5	4	審議会、教授会	教員の任用(採用・昇格)枠について審議、教員選考委員・教員資格審査委員選出	済
R5	5	教員選考委員会	公募内容等決定	済
R5	7	教員資格審査委員会、教員選考委員会	書類審査	済
R5	8	教員選考委員会	プレゼンテーション審査、候補者決定	済
R5	9	審議会	任用審議	済
R5	10	常任理事会	任用審議	済
R5	11	教授会	任用予定者報告	済
R6	4	審議会、教授会	教員の任用(採用・昇格)枠について審議、教員選考委員・教員資格審査委員選出	済
R6	5	教員選考委員会	公募内容等決定	済
R6	7	教員資格審査委員会、教員選考委員会	書類審査	済
R6	8	教員選考委員会	プレゼンテーション審査、候補者決定	済
R6	9	審議会	任用審議	済
R6	10	常任理事会	任用審議	済
R6	11	教授会	任用予定者報告	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

令和6年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 学内での学生アルバイト制度に対する学生への適切な説明・明示【大学 No. 14】
- III 担当部局 学生部●

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>学内での学生アルバイト制度「スチューデントジョブ」の給与について、『点検・評価報告書』内では「ワークスタディーとしての奨学金」として位置付けているが、「スチューデントジョブに関する取扱要領」では奨学金としてではなく、アルバイト労働の対価として金銭（給与）を支給することとなっていることから、適切に学生へ説明・明示ができていなかった。</p>	有	<p>【実施予定】</p> <p>「スチューデントジョブに関する取扱要領」の改正を令和6年度中に行い、あわせてスチューデントジョブ募集説明会時の説明要領・資料の見直しも行うことで、制度そのものの意義・位置づけを明確にし、周知徹底する。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	12	学生部	ホームページ等広報物を見直し、「奨学金としての位置づけ」等の文言を修正	済
R6	2	学生委員会	「スチューデントジョブに関する取扱要領」の見直しと審議。	済
R6	3～4		改正した内容を基に、スチューデントジョブの募集説明会を実施する。	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和7年2月現在

I 提言の別 努力目標

II 提言内容 学生支援に関する「審議会」が主導となった改善・向上の取り組み【大学 No. 15】

III 担当部局 大学全体、審議会(総務部)、教務委員会(教務部)、学生委員会(学生部●)、国際交流委員会(学生部)、就職委員会(連携推進部)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	事業計画に基づく学生支援に関する点検・評価については、学部学科・研究科が行い、事業報告書を作成している。その報告書をもとに、「自己点検・評価委員会」が全学的に点検・評価及び修正指示を行い、「審議会」にて最終的な報告書としてまとめている。しかしながら、まだ「審議会」が主導となった改善・向上の取り組みは行われていない。	有	「審議会」と「自己点検・評価委員会」「教務委員会」「学生委員会」「国際交流委員会」「就職委員会」との関係について、規程の見直しも含め、「審議会」が主導した体制の構築について検討する。 審議会の規程改正を踏まえ、審議会主導のもと各委員会が改善に取り組む体制を整えた。

※年度末進捗 評価指標

【S】達成度概ね101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】達成度が100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】達成度が概ね80%以上99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。

【C】達成度が概ね70%以上80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】達成度が概ね70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】 ※R4 年度～R6 年度の計画をご記入ください (随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7

月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R5	4	-	「審議会」と「自己点検・評価委員会」「教務委員会」「学生委員会」「国際交流委員会」「就職委員会」との関係について、規程の見直しも含め検討依頼 (直接依頼に変更)	未
R5	6	教務委員会 学生委員会 国際交流委員会 就職委員会	「審議会」と「自己点検・評価委員会」「教務委員会」「学生委員会」「国際交流委員会」「就職委員会」との関係について、各委員会の検討結果を審議会に諮る	未
R5	7～10	教務部 学生部 連携推進部	各委員会において規程改正の案を作成し、検討	未
R5	11	審議会	規程改正案の審議	未
R6	4	-	「審議会」と「自己点検・評価委員会」「教務委員会」「学生委員会」「国際交流委員会」「就職委員会」との関係について、規程の見直しも含め検討依頼 (直接依頼に変更)	済
R6	6	教務委員会 学生委員会 国際交流委員会 就職委員会	「審議会」と「自己点検・評価委員会」「教務委員会」「学生委員会」「国際交流委員会」「就職委員会」との関係について、各委員会の検討結果を審議会に諮る	未
R6	7～10	教務部 学生部 連携推進部	各委員会において規程改正の案を作成し、検討	済
R6	11	審議会	規程改正案の審議	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和6年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 学部学生に対する研究倫理教育【大学 No. 16】
- III 担当部局 研究委員会(連携推進部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>研究不正防止の取り組みとして、毎年、大学院生や新任者を対象とした e-learning 教育や、全研究者及び研究業務に携わる事務職員を対象に研究コンプライアンス研修を開催し、更に令和4年度からは研究不正防止に関する啓発活動掲示を年4回実施している。</p> <p>しかし、学部学生に対する研究倫理教育については未実施であり、検討することが望まれている。</p>	有	<p>研究委員会において、令和4年度に学部学科における学生対象の研究倫理教育について実施状況を確認（ヒアリング）し、全学的な実態把握を行った。いずれの学部学科においても、初年次の授業やゼミ等で、レポートや論文の執筆、実験、調査に必要な研究倫理教育の実施が明らかとなったため、現状維持に努めている。令和5年度の研究倫理教育実施状況を集約したところ、全学科において継続実施が確認され、一部の学科では研究倫理教育内容の更なる充実が明らかとなった。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。
- 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。
- 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
- 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。
- 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	9	研究委員会(連携推進部)	各学部学科における学部生対象の研究倫理教育実施状況を把握(研究委員会でヒアリング)	済
R4	10~11	研究委員会(連携推進部)	各学部学科実態把握	済
R4	12	研究委員会(連携推進部)	各学部学科の実態を確認し、組織的な研究倫理教育の実施について検討	済
R5	~9	研究委員会(連携推進部)	令和5年度における各学部学科の研究倫理教育実施状況を把握	済
R5	12	研究委員会(連携推進部)	各学部学科の実施状況を集約し、変更点や課題を確認	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

I 提言の別 努力目標

II 提言内容 「社会連携推進センター運営委員会」による質的な点検・評価の取組み【大学 No. 17】

III 担当部局 社会連携推進センター運営委員会(連携推進部●)

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>「社会連携推進センター運営委員会」が、社会連携・社会貢献活動に関する自己点検・評価を行っている。</p> <p>しかしながら、この点検・評価では、イベントの回数や参加者数等外形的・定量的なものにとどまっており、大学の教育に対する成果・影響についての評価・改善の取組みはこれからであるため、今後は質的な点検・評価を行い、改善・向上に向けた取組みを着実に実施することが望まれている。</p>	有	<p>【実施済】</p> <p>R4年10月3日開催の社会連携推進センター運営委員会において、本学の社会連携・社会貢献活動に関する質的な点検・評価方法及び実施について検討し、学力の3要素を評価するアンケートを実施し経年観察を行うこととなった。早速、R4年度のアグリスクール、Nプロジェクトに参加した学生に対しアンケートを実施し、R5年3月24日開催の社会連携推進センター運営委員会において結果の点検・評価を行い、R5年度以降の継続実施が確認された。</p> <p>R5年度においては、R6年3月1日開催の社会連携推進センター運営委員会において、社会連携・社会貢献活動に関し、参加学生自らが主体となって課題を発見し、改善・解決に繋げる対応能力やコミュニケーション能力の向上につながったことを確認した。</p> <p>R6年度においては、アンケート結果では達成度に差が見られた。それを社会連携推進センター運営委員会の中で共有し、今後の企画改善に活用することとする。</p> <p>今後も継続して学生アンケートを継続しながら現状を把握し、効果検証と改善を進めていく。</p>

※年度末進捗 評価指標

【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。

【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	10/3	社会連携推進センター運営委員会	社会連携・社会貢献活動に関する教育に対する質的な点検・評価方法について検討し、学力の3要素を評価するアンケートの実施と経年評価を行うことになった。	済
R4～R5	10月～1月	連携推進部	社会活動参加学生に対するアンケート実施	済
R5	3/24	社会連携推進センター運営委員会	アンケート実施結果報告、次年度継続に向けて改善点等の検討がなされた。	済
R5	5/26	社会連携推進センター運営委員会	R5年度の社会連携・社会貢献活動開催予定とアンケートの実施予定について連絡	済
R5～R6	10月～1月	連携推進部	社会活動参加学生に対するアンケート実施	済
R6	3/1	社会連携推進センター運営委員会	アンケート実施結果報告、社会連携活動の検証	済
R6	5/14	社会連携推進センター運営委員会	R6年度の社会連携・社会貢献活動開催予定とアンケートの実施予定について連絡	済
R6～R7	10月～1月	連携推進部	社会活動参加学生に対するアンケート実施	済
R7	2/26	社会連携推進センター運営委員会	アンケート実施結果報告、社会連携活動の検証	済

大学評価（認証評価）結果及び短期大学評価（認証評価）結果 進捗確認シート

対応完了

令和5年1月現在

- I 提言の別 努力目標
- II 提言内容 予算執行に伴う効果の分析・検証する仕組みの確立【大学 No. 18】
- III 担当部局 財務部●

IV-1 大学評価時の状況

IV-2 大学評価後の対応予定 ※対応しない場合はその理由

No.	現状と課題	対応予定の有無	改善内容（随時更新）
1	<p>予算執行に伴う効果の分析・検証する仕組みを確立していないため、 執行管理の適切性と費用対効果等を高めるためにも分析・検証する仕組みを作り、実行することが望まれる。</p>	有	<p>財務部としては、規程やマニュアル等の整備はしておらず明記した仕組みはないものの、各部、各学部学科の予算査定においてヒヤリングの機会を設けており、仕組みとしては確立しているものと認識している。しかしながら、費用対効果を分析、検証することが主たる目的ではないため、費用対効果を分析・検証することを意識し、経年の傾向を確認・分析した上で、費用対効果のないものについては、次年度予算には計上しない等の措置を行うことを、より厳格に行っていくことで対応したいと考える。</p> <p>執行の適切性については、経理規程等の各種規定に基づき、起案書や支出伺の点検することで日常的に行っているため、分析・検証されているものと認識している。予算査定時にヒヤリングした内容とは異なる趣旨の予算執行や規定の趣旨にそぐわない内容の予算執行については、チェックし、予算執行を認めない等、の措置を引き続き、厳格に行っていくことで対応する。</p>

※年度末進捗 評価指標

- 【S】 達成度概ね 101%以上：計画を上回って実施し、非常に優れた成果を得た。 【A】 達成度が 100%：計画を予定通り実施し、良好な成果を得た。 【B】 達成度が概ね 80%以上 99%以下：計画を概ね予定通り実施し、一定程度の成果を得た。
 【C】 達成度が概ね 70%以上 80%未満：計画を十分には実施していない。又は、得られた成果が不十分であった。 【D】 達成度が概ね 70%未満：計画を大幅に下回って実施した。又は、実施していない。結果が目標を大きく下回っている。

V 実施計画【詳細(実施時期、実施組織等)】※R4年度～R6年度の計画をご記入ください(随時更新)

(大学基準協会への最終改善報告・R7.7月)

年	月	委員会・組織名	実施内容	実施状況
R4	12月	予算ヒヤリング	予算査定内で当年度予算の費用対効果についてヒヤリングをし検証・分析を行い、その内容を次年度予算に反映させる。	済